

# 京都大学人文科学研究所国際研究ミーティング実施報告書

## 1. 国際研究ミーティングの名称

語り得ぬものを語る—グローバル時代における禅の言葉と翻訳 国際シンポジウム

## 2. 主宰責任者氏名

何 燕生(郡山女子大学教授)

## 3. 開催日時等およびプログラム(講演者名または報告者名を明記してください)

日時:2025年 2月 15日 10:00～17:50

場所:京都大学人文科学研究所分館大会議室

演題等:「語り得なかつたものを語る:道元の『真なる自己』のトロープ解釈」

講演者または報告者:出口康夫(京都大学教授)

演題等:宋代文字禅の思想史的考察」

講演者または報告者:龔雋(広州/中山大学教授)

演題等:「道元の英訳を比較する」

講演者または報告者:Wittern, Christian(京都大学教授)

演題等:「翻訳を哲学する—西田哲学における言語化の問題に基づいて」

講演者または報告者:上原麻有子(京都大学教授)

演題等:「馮友蘭の哲学における禅」

講演者または報告者:齋藤智寛(東北大学教授)

演題等:「永明延寿による仏教の再編: 禅による教・律・浄土の捉え直し」

講演者または報告者:柳幹康(東京大学准教授)

演題等:「道元における言語の位置づけと体用論批判について」

講演者または報告者:長野邦彦(お茶の水女子大学助教)

演題等:「虎闘師鍊の禅思想における言葉」

講演者または報告者:佐久間祐惟(東京大学助教)

演題等: 総評

講演者または報告者:末木文美士(国際日本文化研究センター名誉教授)

司会:古勝隆一(京都大学教授)、水野友晴(関西大学教授)、石井公成(駒澤大学名誉教授)

コメンテーター:石井清純(駒澤大学教授)、氣多雅子(京都大学名誉教授)、山田俊(熊本県立大学教授)、土屋太祐(通訳兼、新潟大学准教授)、頬住光子(駒澤大学教授)、和田有希子(早稲田大学招聘研究員)、

## 4. 概要(400字程度)

本シンポジウムは 2022 年度に採択された共同研究「『語り得ぬもの』を語る行為とその思想表現に関する学際的研究—禅の言葉と翻訳を中心課題として—」という課題の実施計画に基づき、外部の講師や海外の研究者を招聘し、班員を中心とした最終年度における成果の発表、討論を趣旨としたものである。科研基盤 B(24k00013)「禅の言葉と翻訳に関する学際的研究—『正法眼藏』の諸外国語訳の比較分析を通して」との共催で実施した。

午前は「翻訳・道元・東アジア哲学」、午後は「言葉・禅解釈の諸相」という二つの部会に分けて行われた。当日は講演者、司会者、コメンテーターを含め、延べ 40 名が参加した。参加者の中には、遠くは東京都、岐阜県から、近くは大阪、京都市内の関係大学の方および一般市民、大学院生が含まれる。

シンポジウムのメンバーは哲学、思想史、翻訳論、比較文化論、中国哲学、仏教学などの分野から構成され、学際的に議論することができた。

終了後は同じ会場で懇親会が行われ、28 名が参加した。会場の雰囲気が素晴らしいのみならず、シンポ

ジウムの内容も充実しており、成功裡に開催することができたと考える。

## 5. 参加者(別紙「参加状況」も記載してください。)

### 学外

何燕生(郡山女子大学教授)  
龔雠(広州/中山大学教授)  
齋藤智寛(東北大学教授)  
柳幹康(東京大学准教授)  
長野邦彦(お茶の水女子大学助教)  
佐久間祐惟(東京大学助教)  
末木文美士(国際日本文化研究センター名誉教授)  
水野友晴(関西大学教授)  
石井公成(駒澤大学名誉教授)  
石井清純(駒澤大学教授)  
山田俊(熊本県立大学教授)  
土屋太祐(新潟大学准教授)  
頬住光子(駒澤大学教授)  
和田有希子(早稲田大学招聘研究员)  
重田みち(京都芸術大学教授)  
沈庭(武漢大学副教授/東北大学リサーチフェロー)  
浅見洋二(大阪大学教授)  
伊東貴之(国際日本文化研究センター教授)  
前川健一(創価大学教授)  
辻口雄一郎(もと高校教員、日本比較思想学会理事)  
今西智久(株式会社法蔵館副編集長)  
李家明(国際日本文化研究センター大学院生)  
・以上は事前申し込み者のみ。当日の参加者は含まれていない。

### 学内

出口康夫(文学研究科)  
上原麻有子(文学研究科)  
氣多雅子(文学研究科)  
Francisco Medina(京都大学大学院生)

### 所内

Wittern, Christian  
古勝隆一

## 6. 助成金の使途等

申請書のとおり

## 7. その他(成果や今後の展開等、自由に記載してください)

今後は、今回のシンポジウムはもちろん、本研究班の三年間の成果を論文集および報告書の形で刊行し、広く国内外の学界に寄与したい。グローバル時代における新しい価値の創造に資する学術的知見を提供できたらと期待している。

## 参加状況

区分	機関数	参加人数					延べ人数				
		総計	海外研究者	40歳未満	35歳以下	大学院生	総計	海外研究者	40歳未満	35歳以下	大学院生
人文研所属 (下段:女性数)	1	2					2				
京大内(人文研を除く) (下段:女性数)	1	4				1	4				1
国立大学 (下段:女性数)	5	6					6				
公立大学 (下段:女性数)	1	1					1				
私立大学 (下段:女性数)	6	8					8				
大学共同利用機関法人 (下段:女性数)	1	3				1	3				1
独立行政法人等公的研究機関 (下段:女性数)											
民間機関 (下段:女性数)	1	1					1				
外国機関 (下段:女性数)	2	2					2				
その他 (下段:女性数)	1	13					13				
計	19	40				2	40				2
【他の参加状況】											
当日の参加者(12名)については、所属等が不明のため、その他に記入											

※若手の研究者が何人参加したかを把握するためのものとなりますので、わかる範囲で記入してください。

※受入人数及び延べ人数の算出方法は、以下の例に基づき算出してください。

(例) 国際研究ミーティングに参加者 2 人が 3 回参加した: 受入人数 2 人、延べ人数 6 人

※海外研究者、若手研究者(40歳未満)、若手研究者(35歳以下)について

海外研究者...本務所属が海外の研究機関である研究者を記入してください

40歳未満...「35歳以下」「大学院生」を含む「40歳未満」を記入してください

35歳以下...「大学院生」を含む「35歳以下」を記入してください

(例) 35歳の海外研究者の場合 →「海外研究者」1人、「35歳以下」1人

33歳の研究者の場合 →「40歳未満」1人、「35歳以下」1人

※受入人数、延べ人数については上段に総数を、下段(黄色枠)に女性の内数を記入してください。

※「京大内」の所属機関数は「学部数」等を記入してください。